

俳句を楽しむ会

秋季作品
優秀作発表



三つの和(なごみ)シリーズ
和(なごみ)くろ
和(なごみ)ろ
和(なごみ)抹茶入り



菱和園のお茶で
おもてなし



お茶の持つ味と香りを
最大限に引きだし
時間をかけ
ていねいに仕上げました

夫婦茶と呼びて夜長の老いふたり

(甲府) 小泉節子

老いてますます仲睦まじいご夫婦。お二人の間にいつからか生まれた一人きりの言葉。「めおと茶」秋の夜長のひとときを、必ずお茶を召し上げるお二人。召し上げる音器もめおと茶碗か。こんなご夫婦でありたいもの。

むずかしい話はあるとでまず新茶

(身延) 上田正久日

突然の訪問者。その表情や行動に「むずかしい話」が想像される。問題は解決されるためある筈だが、先ずは冷静がいちばん。時はあたたかも新茶の季節。調裕たる新茶を飲み干して、ゆっくりとお聞きしましょう。

漂うは緑茶の香り去年今年

(山梨) 中川雄作

行く年来る年、大晦日の夜は神秘的。行く年に感謝し来る年に幸せを祈る。それぞれに家風はあろうが「漂うは緑茶の香り」家族で緑茶を汲んでの除夜であろうか。部屋いつばいに漂う緑茶の香り、よい年が来る。

秋深く母の遺せし急須かな

(大月) 渡辺正子

秋たけなわの十月頃は、秋のさびしさがまわり、この季節感に古くから詩歌を詠ませた。かつてお母さんが愛用された急須。お母さんにとりてお世話をかけたことか。お母さんありがとう。茶葉を急須に、今日も頂くのだ。

井戸に汲みこだわり重ぬ煎茶かな

(甲府) 村上郁夫

先祖代々、伝えに伝えた屋敷内の掘井戸。冬は温かに夏は冷たい。煎茶は今も「こだわり重ぬ」この水を使っている。朝々捨ける仏様への献茶。きつと仏様も、よろこんでいてくださることであろう。

佳作

寒風の集いいっしょのお茶噺

(北杜) 小林 保雄

長き夜の詩を生ましめる緑茶かな

(身延) 小林 利典

朝寒やふと手で包む茶のうまさ

(大月) 湯沢 正典

冬座敷母を真中に玉露汲む

(甲府) 中村 彰

秋深し焙じ茶匂う客問より

(上野原) 天野 昭正

大年やお茶濃く入れて飲みにけり

(甲斐) 石川 凡夫

お茶の味分かる笑顔の孫二人

(甲府) 小泉 一布

お茶のめば元気がでるよ冬の朝

(富士田) 小四 青柳健太郎

ほろ酔いに茶話はずむ女正月

(甲府) 米山 正雄

茶の花や湧水甘くすき透る

(甲州) 山本登志子

午後の茶や夫婦で愛でる冬薔薇

(甲斐) 高橋 正

大花野お地蔵様にお茶を汲む

(富士河口湖) 伊藤 文子

次回作品募集のご案内

- 次の応募締切は三月三十一日(木)消印有効になります。
- テーマは、番茶、焙じ茶、昆布茶、梅茶など、寒さの中で、家族や隣人・仲間と暖かく楽しむ日本茶・紅茶の俳句を募集します。
- 応募頂いた作品の中から優秀な作品には素敵なプレゼントを用意しています。発表は応募締め切り後三及び四週目の土・日何れかで新聞広告します。
- 選者は県内で俳句活動を行われている渡辺柳風先生にお願いいたします。(先生には選考にあたり表現上の添削もお願いしてあります。ご了承下さい)

方法 ● ハガキで菱和園本店まで郵送していただくか、左記直売店までお持ちください。お一人様何点でも応募できます。● 応募いたたく作品は未発表の物に限ります。また、応募作品は返却いたしません。● 作品には応募者の住所、氏名、年齢、電話番号を「記入ください」。ペンネームで応募される方は「ペンネームの下に(本名)を括弧で囲んでください。」

味と香りの「ミニ」シリーズ



本店 山梨県甲府市太田町四一七 電話〇〇八六五
TEL: 055(2)351075

直売店 太田町本店 ■ ジョイ店 ■ 湯村店
山交店 ■ リバーシティ店

※応募いただく個人情報は入選作品のプレゼント発送に利用します。また、菱和園からの季節の知らせにも利用させていただきます。必ず必要となる方は、その旨応募時のハガキ裏面に記入願います。この目的以外での個人情報の利用は行いません。